

令和5年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価（中間報告）		学校関係者評価 (10月22日実施)	総合評価（3月12日実施）		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制総合学科、単位制の利点を活かし、基礎学力の定着や学習意欲の向上を図る教育課程を提供する。 ・多様な生徒の学習ニーズに応える柔軟な学習支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①多様な進路の実現を支援する履修指導、単位につながる指導を継続し、併せて閉課程に向けて、教育課程を整備する。 ②ICT 機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践、授業改善を組織的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりの進路実現に向けた丁寧な履修指導、総合学科の学びを活かした単位修得につながる指導を行う。 ①個に応じた丁寧できめ細かな教科指導を行う。 ①閉課程に向けて生徒の進路実現に対応した時間割の調整を行う。 ②ICT 機器を有効活用した授業研究、研修会等を計画的に実施し、組織的に授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりの単位修得につなげることができたか。 ①生徒による授業評価において「授業の在り方」で80%以上の肯定的な意見を維持できたか。 ①閉課程に向けて令和6年度からの時間割を作成できたか。 ②校内授業研究、研修会等を計画的に実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①第1回目の選択科目説明会・履修指導を実施した。 ①夏季休業中を中心に、学校外の学修に取り組む指導を積極的に行った。 ①1回目の生徒による授業評価では、多くが肯定的な意見であったが、前期成績において、成績不振の生徒がいた。 ①閉課程に向けての時間割案を作成した。 ②ICT 機器を有効活用した授業実践をテーマとした、授業改善研修会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年度末において、進路実現につながる個に応じた履修指導を行う。 ①総合学科の学びを活かした学修に取り組むよう、指導を継続する。 ①2回目の授業評価においても、80%以上の肯定的な意見を維持できるよう、各教科指導に取り組む。 ①年度末の成績会議では、成績不振の生徒がいなくなるよう、個に応じた丁寧な教科指導を工夫する。 ②引き続き組織的な授業改善に努める。 	<p>生徒の授業評価の数値から先生方の努力が伺える。引き続き80%以上を維持できるよう期待する。</p> <p>ICTを活用したアンケートを活用して、生徒の理解度を随時確認しながら授業を進めるような取組に期待する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりの単位修得につながる履修指導を行うことができた。 ①年間を通して、学校外の学修に取り組むように積極的な声掛けを行い、多くの生徒が学校外の学修に取り組むことができた。 ①生徒による授業評価では、年間を通して80%以上の肯定的な意見を維持することができ、年度末の成績では成績不振の生徒はいなかった。 ②ICT 機器を有効活用した授業実践、授業見学週間、授業改善研修会を実施し、組織的な授業改善に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①閉課程に向け、生徒一人ひとりの特性等を考慮し、見通しを持った学習ができるように履修指導を行っていく。 ①年間を通して学校外の学修等に取り組むことができるよう、定期的に計画の見直しを行い、組織的な指導を行う。 ①引き続き、生徒の深い学びにつながるような、個に応じた授業の実践に取り組む。 ②引き続き、ICT機器を活用した授業実践、教科等横断的な指導に組織的に取り組んでいく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって安心、安全な教育環境の確保に努め、生徒の自己実現に向けたきめ細やかな支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりの課題を早期に見出し、解決するための支援体制を拡充する。 ②成年年齢引き下げに伴い、成年に求められる思考力、判断力の育成を図り、社会で通用する価値観が身につく、自立に繋がるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員や連携が可能な外部機関と生徒情報を共有し、生徒一人ひとりの課題の改善や環境整備に対する取り組みを組織的にを行い、支援教育の充実を図る。 ①特別な支援や配慮が必要な生徒に対して、医療や福祉との連携が適切に行われたか。 ①進路担当と適切に連携できたか。 ②社会通念上必要となる価値観の育成がましい自立に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員間の情報共有が適切に行われたか。 ①支援教育を充実させることはできたか。 ①支援が必要な生徒に対して、医療や福祉との連携が適切に行われたか。 ①進路担当と適切に連携できたか。 ②社会通念上必要となる価値観の育成がましい自立に繋げられたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育相談会で生徒の課題について取り上げ、職員会議等で情報共有ができていない状況にない生徒についても「かながわ子どもサポートドック」により、プッシュ型面談に繋げることができた。 ②集会、LHRを通じて社会理念上必要な考え方を伝えることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年度当初より、多くの生徒が支援対象となっており、SSWの対応が追い付いていない状況にない。SSW・SCの助言に基づいて教育相談C○を中心に組織的に対応するための方策を考える必要がある。 ②発達段階に応じた伝え方について工夫をする必要がある。 	<p>一人ひとりの生徒情報をきめ細かく全職員で共有できている状況が伺える。</p> <p>・サポートドック実施においてSSWの対応が追い付いていないほどの支援対象が見いだされており、先生方が生徒としっかり関係を築けていると思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①SC・SSWおよび管理職同席のもとで教育相談会を定例で行い、支援の必要な生徒が把握できた時点で速やかにケース会議が実施できた。(14件) ①教育センターの相談機能の活用、他機関連携も積極的に行うことができた。 ②生徒の発達段階に応じた支援に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①適切な学習環境を保障するため、多重構造的に生徒が抱える様々な課題について、課題の整理・分析・対応をSSWと連携しながら実施し、組織的な支援を継続的に取り組んでいく。 ②生徒の発達段階を見極め、適切な支援に取り組んでいく。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実情に沿ったキャリア教育を推進し、社会生活実践力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりに応じた進路指導・支援体制をさらに充実させ、希望の進路実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の実情を把握し、引き続き個に応じた進路指導・支援を行う。 ①進路の手引きを改訂し、組織的に進路指導・進路支援ができるよう整備する。 ①職業観を育成するため、学校外における学修への参加を積極的に呼びかけ、生徒が主体的に進路活動に取り組む環境を整える。 ①発達の特성에応じた支援を組織的にを行い、適切な就労支援につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①就職を希望する生徒の内定率が80%を超えたか。 ①進学を希望する生徒の80%が志望分野への進学決定ができたか。 ①進路の手引きを改訂し、組織的な支援に繋がったか。 ①就業体験等への参加者が増加したか。 ①組織的に適切な就労支援等が行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりの状況を把握し、きめ細かな進路指導を行った。 ①他のグループと連携し、組織的な進路指導・進路支援を行った。 ①就業体験等へ積極的な参加を促した。 ①外部機関・生徒支援担当と連携し、組織的に発達の特性に応じた生徒の就労支援等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①就職を希望する生徒、進学を希望する生徒がそれぞれ進路実現できるように、個に応じた丁寧な進路指導支援を行う。 ①進路の手引きを改訂する。 ①引き続き発達の特性に応じた適切な就労支援等につながるよう、組織的な支援を行う。 	<p>具体的な方策と評価の観点に沿った取組になっていることから今年度末の総合評価の成果に期待する。</p> <p>卒業生が就職等の進路を見つけ、地域社会に受け入れられるよう指導・支援に期待する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①学校斡旋により就職を希望する生徒の内定率は80%であった。 ①進学を希望する生徒は、100%進路決定ができた。 ①進路の手引きの改訂を行うことができた。 ①年間を通して、就業体験等へ参加する生徒がおり、進路決定につながった。 ①適切な支援につながるよう就労支援事業所等への見学等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①引き続き個に応じたきめ細やかな指導を行い、進路実現につなげる。 ①進路の手引き等を活用し、今後も進路に関する状況を共有し、希望の進路につながるよう組織的に進路指導・支援を行う。 ①年度当初から就業体験等へ参加できるよう引き続き声掛けを行っていく。 ①引き続き発達の特性に応じた支援を組織的に行う。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(中間報告)		学校関係者評価 (10月22日実施)	総合評価(3月12日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>・学校外の機関と協働・連携や外部人材の活用により、地域の教育力を生かした学校づくりを進める。</p>	<p>①多様な生徒のニーズに対応するため、継続して外部機関等との協働を図る。 ②本校ホームページを活用し、教育活動を発信することにより、地域とともに育つ向工を実現する。</p>	<p>①地元の企業や公的機関との連携を図り、協働による学びの充実を図る。 ②本校ホームページや後援会活動等を通して、保護者等や地域の方々へ学校行事等への参加を呼びかける。</p>	<p>①学校外の機関と協働した学びを行えたか。 ②学校行事を始めとする必要な情報を、ホームページを通して、更新回数を増やして伝えることが出来たか。</p>	<p>①県内外の企業や外部機関と連携し、協働による学びを行うことができた。 ②後援会と協力して、保護者等や地域の方々との連携を行っている。 ②在校生や保護者等、また地域の方々や本校への進学希望者への有益な情報について、月に2回以上の更新目標をおおむね達成できている。</p>	<p>①生徒のニーズを把握し、協働による学びを継続して行う。 ②後援会と協力して、地域貢献活動などを継続して行っていく。 ②在校生の保護者等、地域の方々や本校への進学希望者に対し有益な情報を適宜提供していく。</p>	<p>・多様性を尊重した新しい教育活用が行われるよう地域等との連携に期待する。</p>	<p>①地元の企業や公的機関、就労支援事業所等と連携を図り、協働による授業を行うことができた。 ②後援会として4年ぶりに向友祭での模擬店を催し、保護者等や地域との協働を図ることができた。 ②ホームページ等を用いて、本校の教育活動を情報発信することができた。</p>	<p>①引き続き、学校外の機関と連携し、協働した学びの充実を図る。 ②今後も後援会活動を通じて、保護者等や地域との協働を推進する。 ②今後も本校における教育活動をホームページに掲載し、効果的な情報の発信に努める。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・安全教育、環境教育を推進し、安心安全な教育環境を構築する。 ・全ての職員の資質向上を図るとともに、風通りの良い職場づくりをめざし、教職員の事故不祥事を未然に防止する。</p>	<p>①生徒が安心・安全な学校生活を送れるよう校内の環境を整備するとともに、ICTを効果的に用いながら、防災体制の一層の充実を図る。 ②保護者等・地域に信頼される学校づくりをめざし、職員の資質向上に向け、全職員が引き続き連携・協力して不祥事防止に取り組む。</p>	<p>①教育活動全体を通して、校内の巡回等やこまめな清掃活動を適切に行うことで、生徒の安心・安全な学校生活をサポート(支援)する。 ①計画的に防災訓練を行い、生徒・職員の防災意識を高める。 ②定期的に不祥事防止等の研修を行う。</p>	<p>①こまめな清掃活動を適切に行い、生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう学校づくりを実践できたか。 ①計画的に防災教育を実践し、生徒・職員の防災意識を高めることができたか。 ②全職員で不祥事ゼロを達成できたか。</p>	<p>①清掃活動に加えて、生徒に対するごみの分別の指導を徹底するなど、生徒が安心して学校生活を送れるよう環境整備に努めている。 ①授業中を想定した避難訓練を実施し、生徒・職員の防災意識を高めることができた。 ①D I G訓練を行い、緊急時の適切な行動を検討することができた。 ②不祥事はゼロであった。</p>	<p>①感染症対策等の状況を確実に捉えながら、今後も適切な清掃活動を始めるなどとする環境整備に努める。 ①防災訓練の実施とともに、災害時の想定した準備、備蓄品や防災用品の整備・管理を行う。 ②引き続き、全職員で不祥事ゼロを目指す。</p>	<p>・コロナ感染症の影響もあったと思われる過去数年間の後、学校行事がいろいろな体験を通して新しいことに目を向ける良い機会になっている。</p>	<p>①清掃活動を定期的に行ったり、ごみの分別の指導を行ったりすることで、生徒の美化意識の向上を図り、生徒が安心して学校生活を送れるような環境整備に努めることができた。 ①洪水を想定した避難訓練を実施し、生徒・職員の防災意識を高めることができた。 ①D I G訓練を行い、緊急時の適切な行動を検討することができた。 ②不祥事はゼロであった。</p>	<p>①今後も引き続き適切な美化活動を実践し、生徒の安心・安全な学校教育を実現する。 ①防災訓練やD I G訓練(災害図上訓練)については、今後も様々な状況を想定し、また、地域と連携しながら、定期的実施していく。 ②今後も全職員で不祥事ゼロを目指し、取組を進めていく。</p>